

財団法人第五福竜丸平和協会

平成21年度前期事業報告

平成21年4月1日～11月1日

本年度は新藤兼人監督の映画『第五福竜丸』公開50周年に当たるため、これをテーマに特別企画を組んだ。一方、当法人自体の問題としては、公益法人移行認定を進めるため、前年度3月3日の申請の後を受けて、手続きと作業を重ね、関係者の方々のご努力とご協力により9月28日に東京都公益認定等審議会の答申を経て、10月21日に東京都からの認定書の交付を受け、11月2日付で移行登記を済ませた。

したがって、以下の事業報告は、民法第34条財団法人として最後の年度の報告となる。

1. 公益目的事業

ア 展示、保存対策

当年度において、第五福竜丸展示館は指定された休館日を除き185日開館した。来館者総数は76,147人、うち団体見学数は496団体で、小学校57校3,103人、中学校163校8,202人、高校77校1,726人であった。

海外からは、オーストラリア（教授）、インド（学者一家）、イタリア（卒業論文で第五福竜丸を取り上げた方ほか）、アメリカ（教授、ジャーナリスト、活動家、留学生）、アジアの留学生などが来館した。

なお、新型インフルエンザで申し込まれていた学校が急に見学をキャンセルするケースもあった。

8月には子どもワークショップ、牛乳パック工作教室が展示館内で行われた。

9月に、埼玉の青年有志によるエンジンの清掃と錆止め薬の塗布が行われた。

イ 企画展と資料収集

本年は映画『第五福竜丸』（新藤兼人監督、1959年）の50周年に当たるので、企画展「新藤兼人監督の映画第五福竜丸50年展」を5月16日から6月30日まで開催し、制作時のニュースやシナリオ、スチール写真など現物資料も展示した。また、新藤兼人作品の音楽を担当している林光

さんの仕事の紹介も併せて行った。

企画展の初日、5月16日には、林光さんを迎えて「ひびきあう福竜丸のしらべ」、船体に響くラッキードラゴン・クインテットのコンサートを展示館内で開催した。

また、6月の毎週土曜日には映画『第五福竜丸』上映会を展示館内で行った。

映画会の参加者は6月6日28人、13日20人、20日55人、27日32人であった。

東京大学生協の元職員、高橋晴雄さん、広瀬なかさんから、東大病院に入院していた第五福竜丸の乗組員を慰問し、レクリエーションで外出した折の写真が寄贈された。

久保山さんのカルテが国立国際医療センター戸山病院（元、国立東京第一病院）の保管庫で発見された旨、木村壮介院長より発表された（7月13日）。同院長は「貴重な資料なので病院で永久に保存したい」と語った。当法人もこの資料には注目している。

故檜山義夫教授のビキニ事件に関する資料が、東京大学水産学研究室の青木一郎教授より寄贈された。

和歌山県新宮造船所で木造船建造に従事された倉本棟梁の子息、大崎一郎、史子さん（千葉県市原市）より船大工の道具箱が寄贈された。

版画家、小林喜巳子さんの作品「久保山愛吉さんの死」（1954年）が寄贈された。

ウ 巡回展への協力

下記の巡回展に対し、展示パネルの提供、講師の派遣など、協力を行った。

5月14日～9月20日ピースおおさか「第五福竜丸展」

5月28日～6月2日福岡市アジア美術館あじびホール「第五福竜丸展覧会」

6月27日～6月29日宮城県東松島市（NPO 地球とともに）パネル展「マグロ漁船 第五福竜丸と乗組員」

6月23日～7月12日ナガサキ・ピースミュージアム「第五福竜丸展」

7月18日～9月23日福島県白河市アウシュヴィッツ平和博物館「第五福竜丸とマーシャル諸島の核被害」展

8月7日～9日大阪・富田林市主催「第五福竜丸展」

7月23日～27日西宮市主催原爆展
7月31日～8月2日市原市 原爆の絵展
10月8日～10月22日みやぎ生活協同組合「第五福竜丸展」
10月10日～10月17日藤沢市平和の輪をひろげる実行委・藤沢市教育委員会「第五福竜丸のパネル展示」

以上のほか、さいたま、焼津、三島、名古屋などでの「平和のための戦争展」の中で行われた第五福竜丸のパネル展示に協力した。

上記巡回展等は、それぞれの地域におけるメディアで紹介された。安田和也事務局長及び市田真理学芸員はいくつかの行事に招かれて講演を行った。

エ 普及・広報活動

恒例行事は、当年度は以下の通り行われた。

4月5日の「お花見平和のつどい」には150人が参加した。

7月20日には展示館内で、マーシャルの核被害を伝えたジャーナリストたちによるシンポジウムが行われた。

久保山愛吉さんの命日9月23日には展示館内外で種々の集会が行われた。久保山忌句会（18名）、マグロ塚を作る会（38名）、東京原水協見学学習会（43名）、平和を語る第五福竜丸の集い（88名）。

『福竜丸だより』は3・4月合併号、5・6月合併号（8ページ）、7・8月合併号（6ページ）、9・10月合併号（8ページ）、計4号を発行した。

当法人の行事はメディアで紹介され、また、取材に協力した。

企画展・コンサートは東京新聞、朝日新聞ほか、で紹介された（5月）。

大阪朝日放送が現代アーティスト・ヤノベケンジの番組制作のため展示館でロケを行った（10月）。

海外メディアについては、トルコ国営テレビの取材に協力した（8月）。

当法人の職員等も広報活動に積極的に協力した。

安田事務局長は『非核ネットワーク通信 129号』（非核自治体全

国草の根ネットワーク世話人会、4月29日発行)、『未来へのかけ橋第21号』(テレジンのピアノの会、5月30日発行)に寄稿した。

市田学芸員は『月刊社会教育 No.643』(5月1日発行)の座談会「平和の世紀を創る若手職員の挑戦」に参加、月刊『母のひろば第543号』(童心社、8月15日発行)に寄稿した。

2. その他の事業

出版物・記念品等頒布事業

『林光 ラッキードラゴン・クインテット完結版』(DVD)を7月に150本制作、完売した。

復刊写真絵本『水爆の島マーシャルの子どもたち』(島田興生著、マーシャルの子どもたち55プロジェクト)を5月15日に刊行、1,000部を普及した。朝日新聞、北海道新聞、読売新聞で紹介された。

『猿橋勝子という生き方』(米沢富美子著、岩波科学ライブラリー)が4月に刊行された。

3. 法人の管理運営

当年度は、公益認定申請の関係で、臨時の会議を開催して対応した。

4月26日 臨時評議員会、臨時理事会

5月24日 評議員会、通常理事会

6月29日 臨時評議員会、臨時理事会

11月1日 評議員会、通常理事会

賛助会員等の異動は下表の通りである。

賛助会員	2009. 4. 1	2009. 11. 1
個人	387	386
団体	63	61

	2009. 4. 1	2009. 11. 1
ニュース購読会員	58	58